

古代学学術研究センター・研究会
遷都から見る日本史

日時： 6月21日（月）17:00～19:00

会場： 本部管理棟3階 第3会議室

報告： 「遷都研究の現状と課題」

舘野 和己（古代学学術研究センター長）

いま、なぜ遷都なのか

和銅3（710）年に平城が都とされてから1300年を数える今年、奈良の街は“遷都1300年祭”でにぎわっています。しかし、私たちは「遷都」という現象について、どれほどのことを理解し、それをふまえて歴史像を作りあげているのでしょうか。なぜその場所に都がおかれたのか、なぜ都は遷されたのか、問われるべき課題はまだ多く残されているように思われます。

奈良女子大学古代学学術研究センターでは、21世紀COEプログラムが実施されていた時から「都市」をひとつのキーワードとして研究に取り組んできました。今年度は、それらの成果もふまえつつ、研究会のテーマの一つとして、国家の政治中心たる都市すなわち都の移動—遷都—を問題化し、歴史を見なおしてみたいと思います。

大学院生・学生のみなさんのご参加をお待ちしています！

問い合わせ先：舘野 和己（0742-20-3307）